

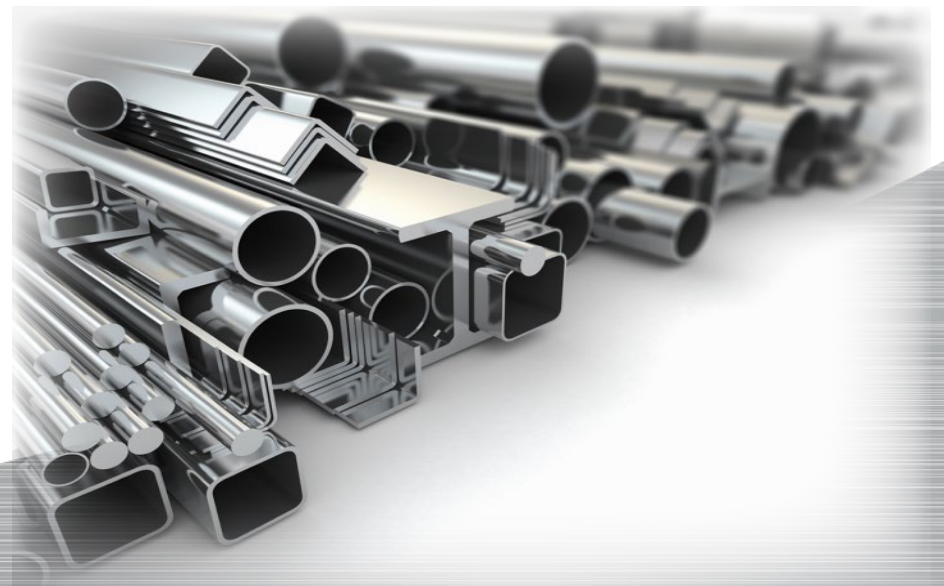


2022.7.13

福証IRフェア説明資料

小野建株式会社

証券コード 7414



CONTENTS

I 小野建の会社概要

II 小野建の強み ～物流センター、鋼材加工、工事請負～

III 現在の状況と中期ビジョン

IV 設備投資・ESGについて

V 2023年3月期の見通し・株主還元・株価指標について

本資料および将来の見通しに関する注意事項

本資料は事業内容等に関する情報提供を目的としており、当社株式への投資を推奨するものではありません。また、資料に記載されている内容につきましては、種々の前提に基づいたものであり、将来の計画数値、施策などに関する記載については、不確定な要素を含んだものであることをご理解ください。

会社概要

商号

小野建株式会社

設立

1949年8月

代表者

小野 建

資本金

54億6,263万円

連結売上高

2,227億5,900万円

従業員

834 人(連結)

上場取引所

東証プライム
福証 (7414)

業種

鉄鋼・建材流通商社

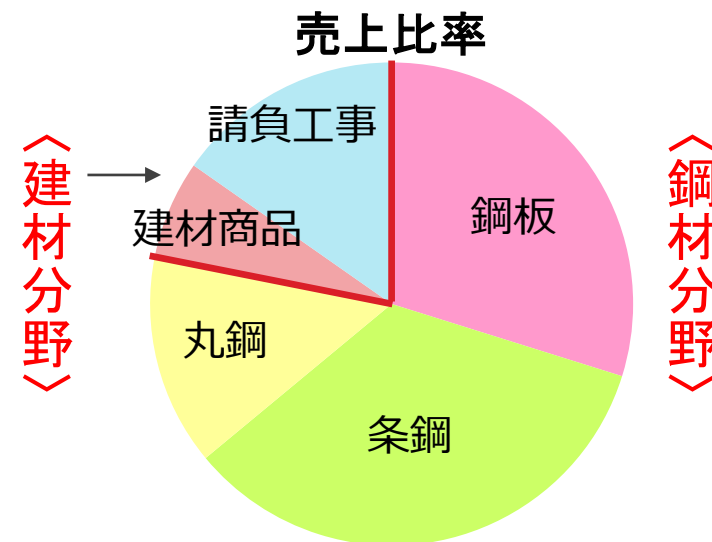
主な事業内容

I. 鋼材の販売・加工
II. 土木建築材料の販売
土木建築工事の請負

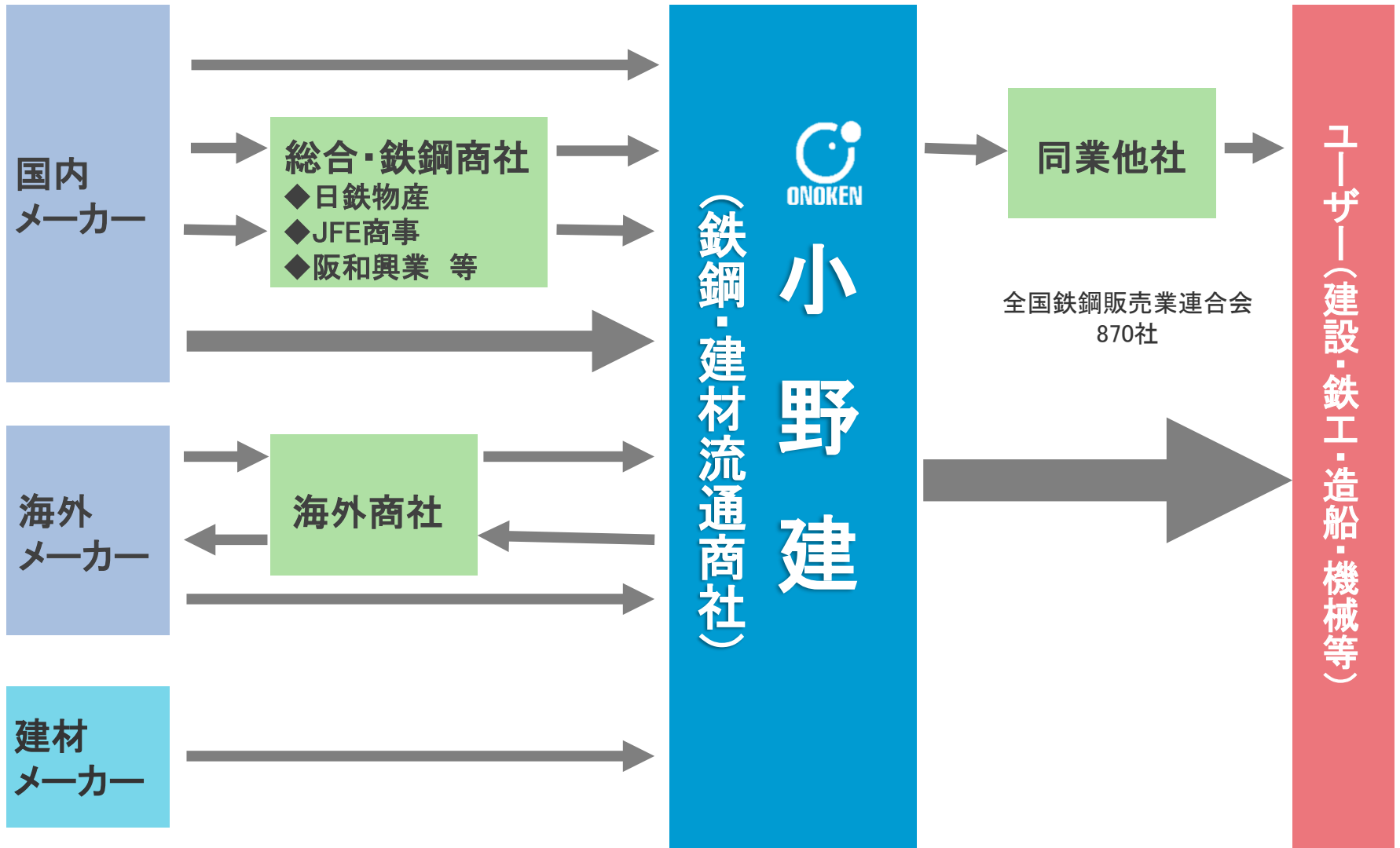
(2021年12月31日現在)



小野建株式会社本社 小倉支店

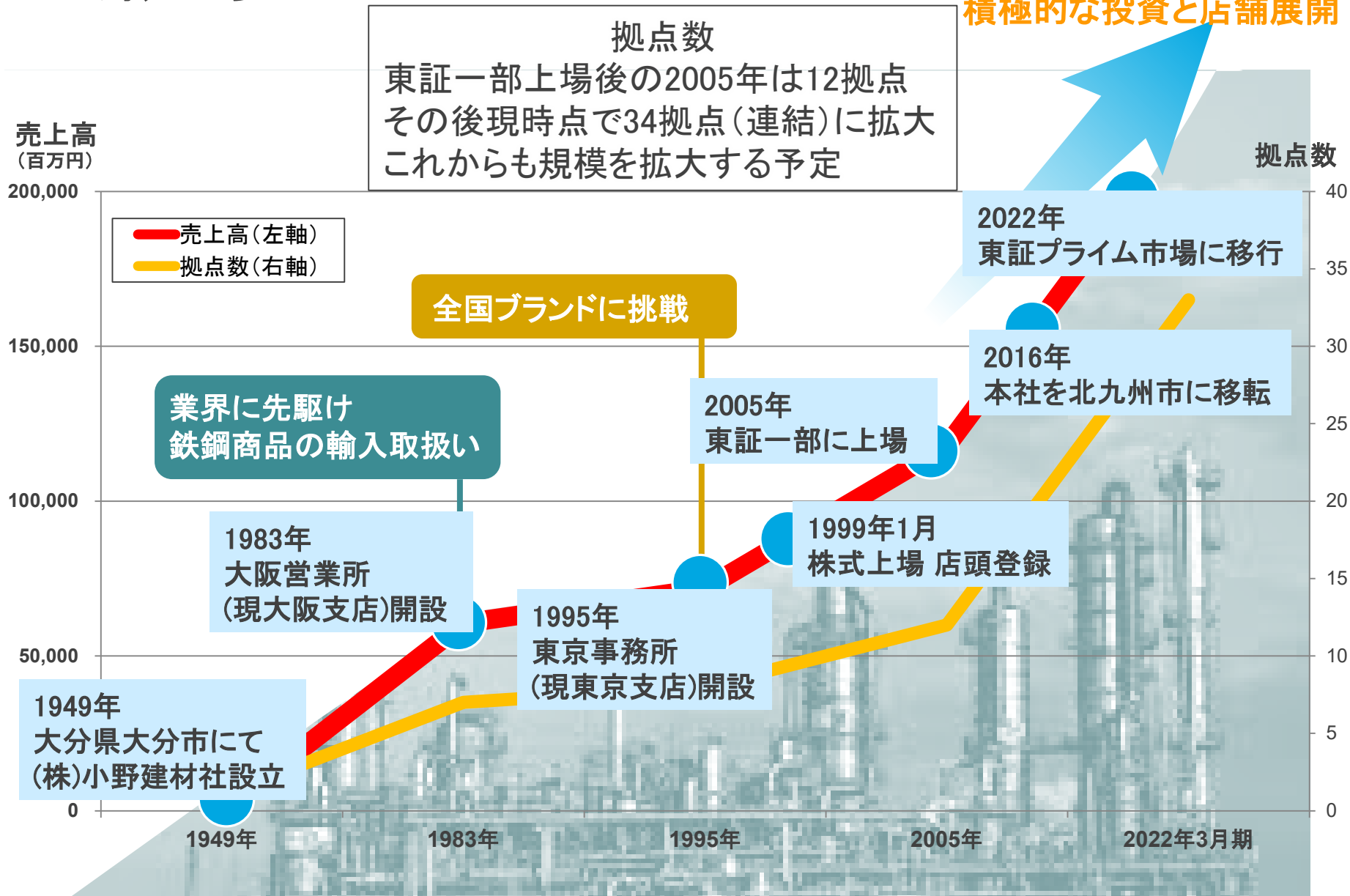


鉄鋼流通業界とは



小野建の歩み

積極的な投資と店舗展開



全国ブランドに挑戦

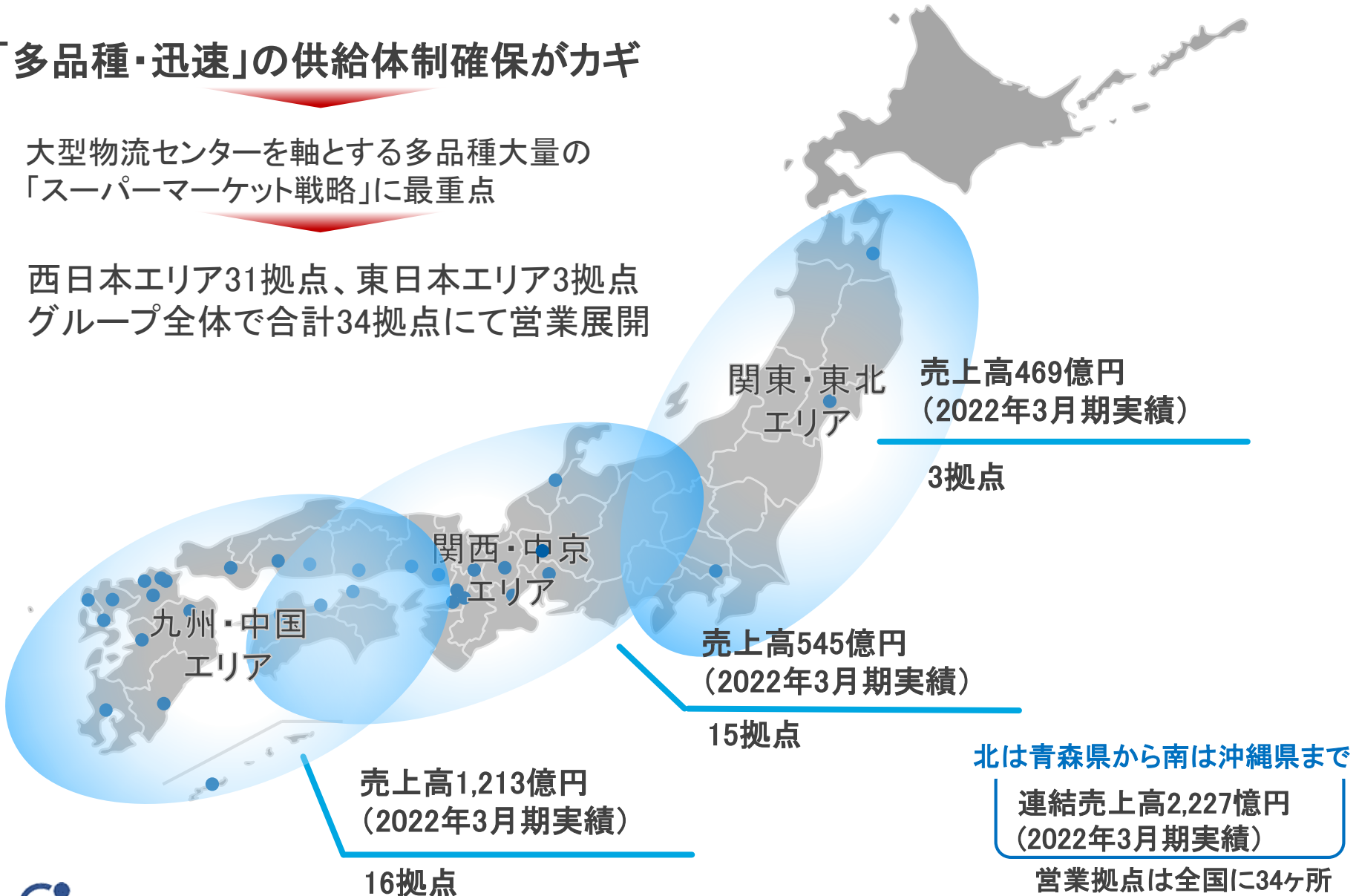
業界に先駆け
鉄鋼商品の輸入取扱い

全国にネットワークを展開

「多品種・迅速」の供給体制確保がカギ

大型物流センターを軸とする多品種大量の「スーパーマーケット戦略」に最重点

西日本エリア31拠点、東日本エリア3拠点
グループ全体で合計34拠点にて営業展開



I. 鋼材分野と使用例

鋼板

鉄を板状にしたもの
工事現場の敷板等に使われる



鉄鋼商品

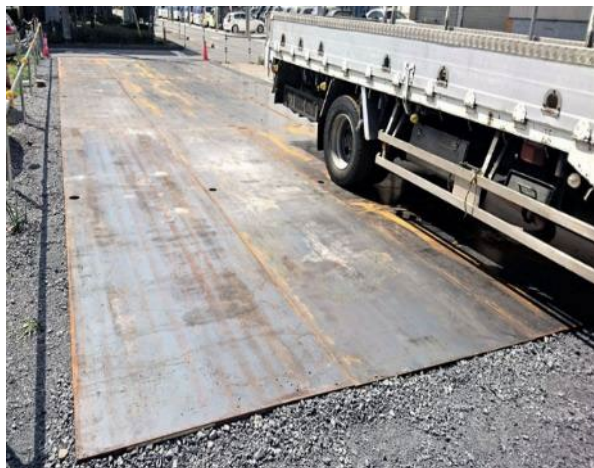
条鋼

型鋼とも呼ばれ、色々な形に
成形したもの
建物の骨組等に使われる



丸鋼

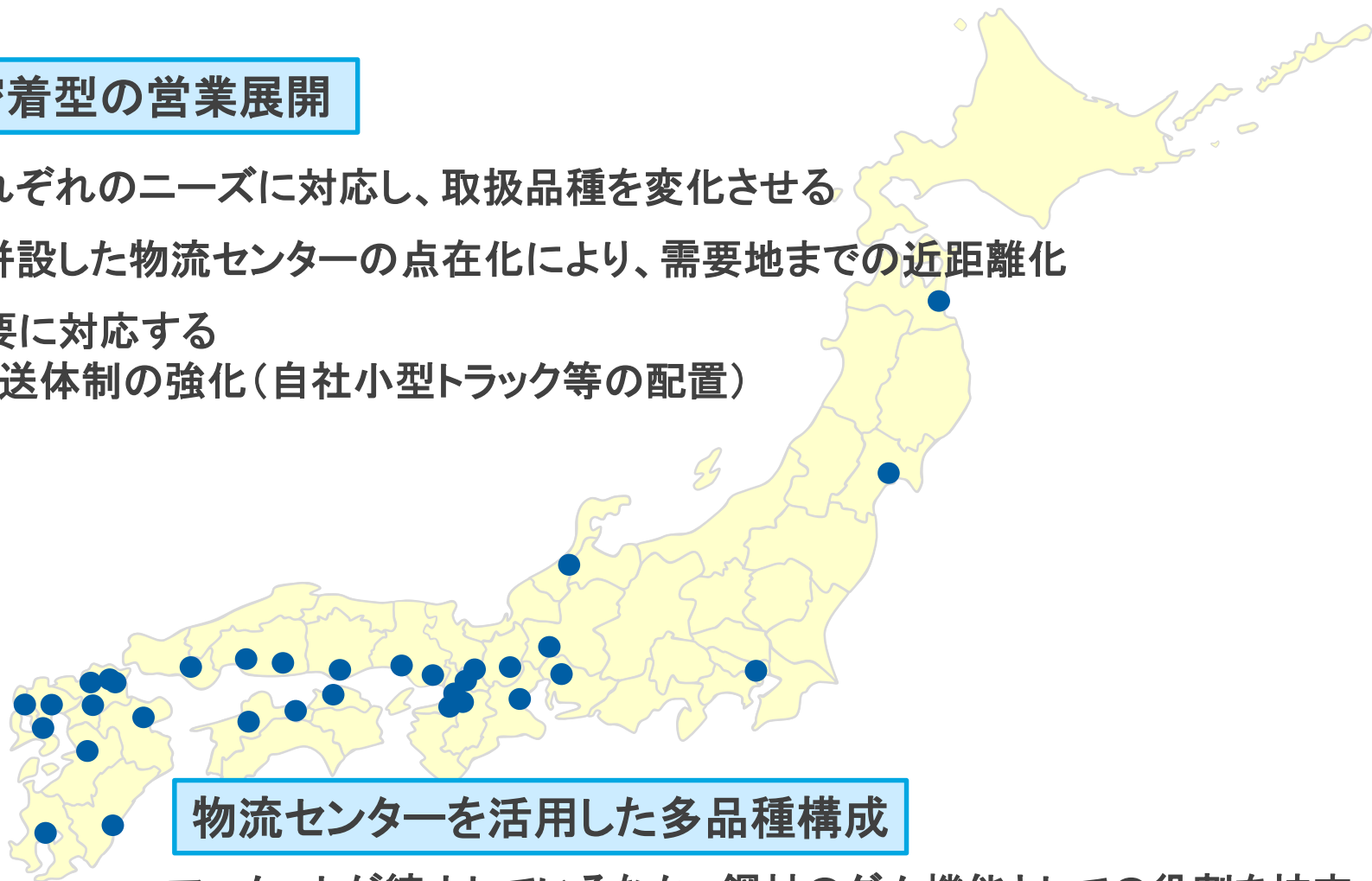
鉄を丸い棒状にしたもの
建物の基礎等に使われる



拠点を点在化による細かなサービス

地域密着型の営業展開

各地それぞれのニーズに対応し、取扱品種を変化させる
拠頭に併設した物流センターの点在化により、需要地までの近距離化
小口需要に対応する
在庫・配送体制の強化（自社小型トラック等の配置）



物流センターを活用した多品種構成

マーケットが縮小しているなか、鋼材のダム機能としての役割を拡充
ユーザー直結の川下戦略を徹底し、販売先数を拡大
鉄鋼流通業界において、豊富な在庫を持って商売できることは大きな強み

当社所有の物流センター



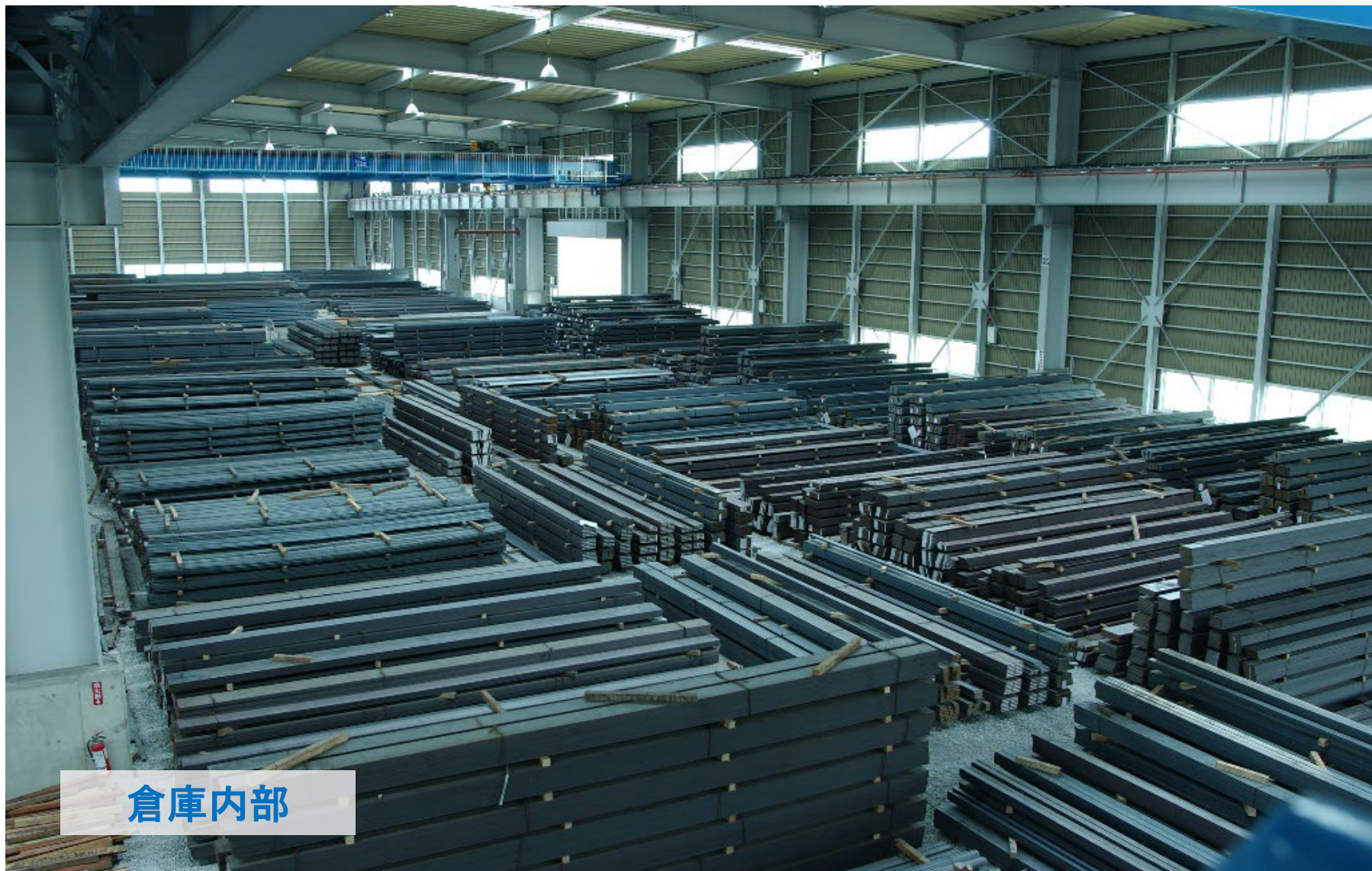
東京支店川崎センター

当社所有の物流センター



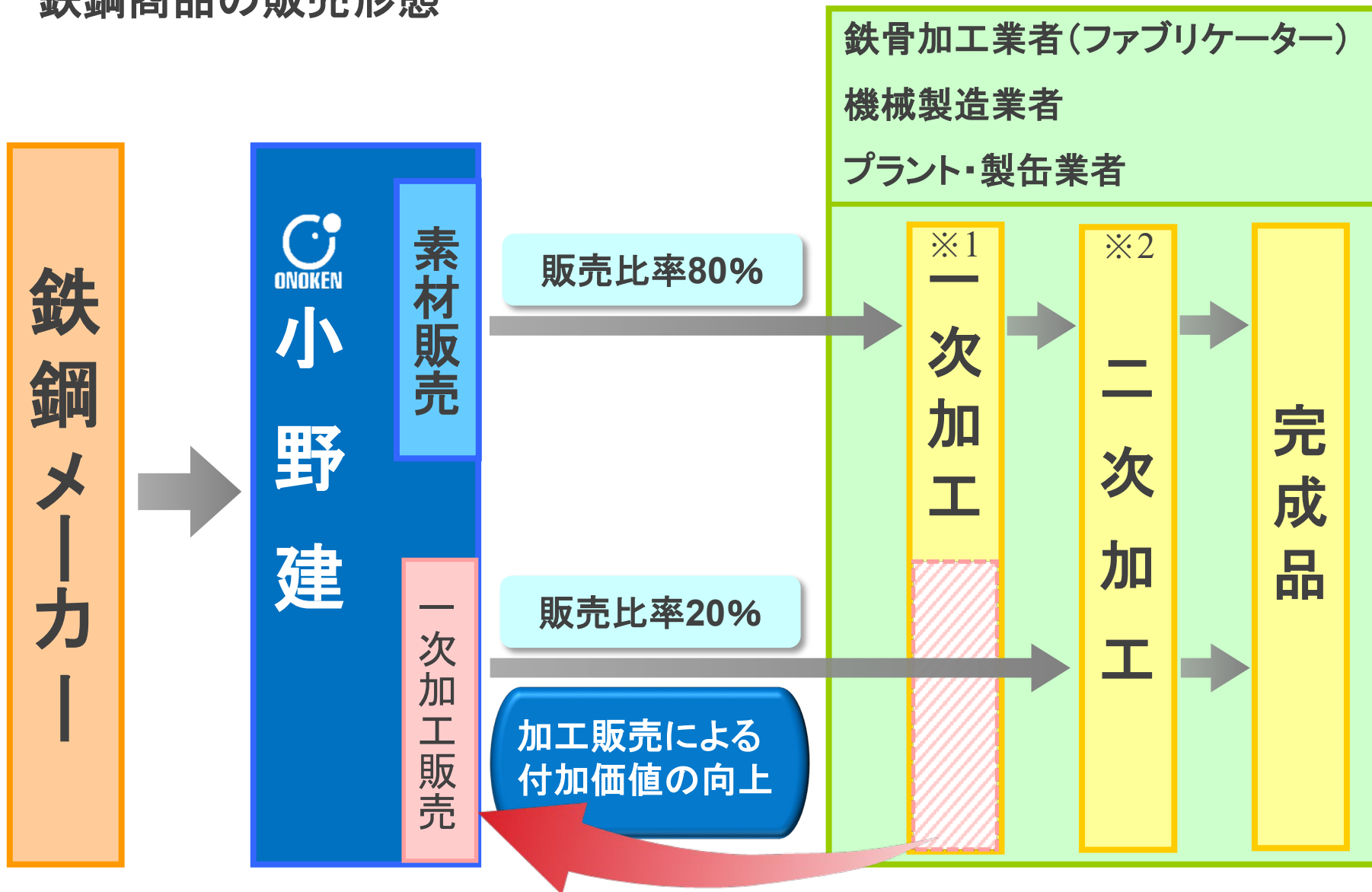
倉庫内部

当社所有の物流センター



倉庫内部

鉄鋼商品の販売形態



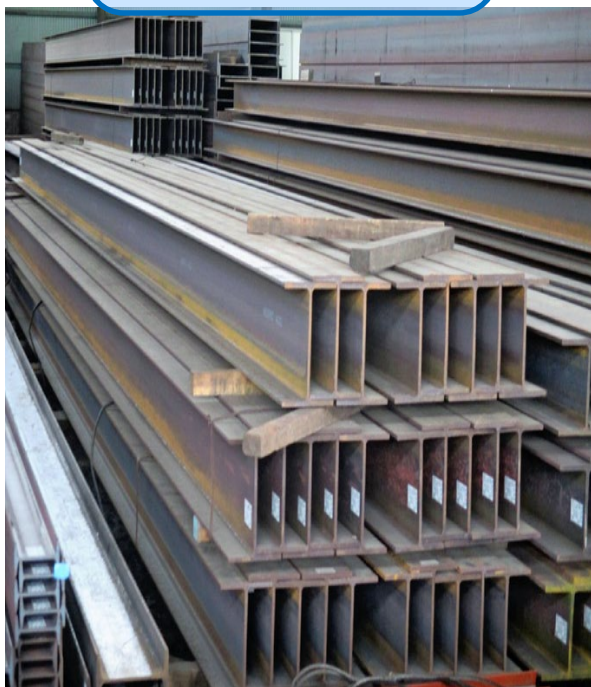
※1 一次加工・・・切断・穴あけ等の加工

※2 二次加工・・・一次加工品に組立・溶接・塗装等の加工

一次加工の例

付加価値向上により鉄鋼市況の影響を受けにくい商品の取扱拡大

加工前のH形鋼



加工機にて
切断・穴あけ



加工後の
(切断・穴あけ後)
完成品



当社所有の加工設備



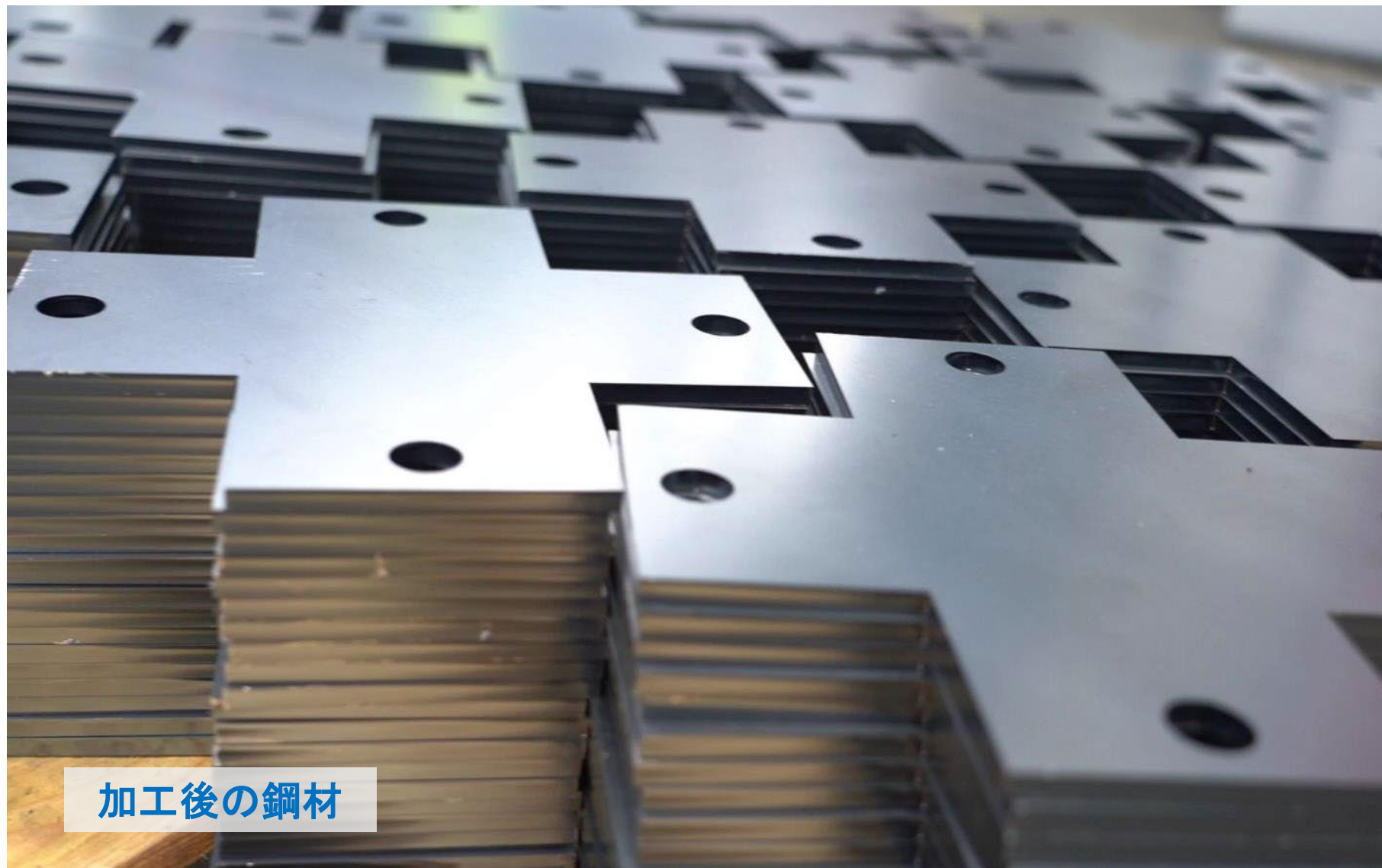
堺センター加工機

当社所有の加工設備



レーザー加工機

当社所有の加工設備



加工後の鋼材

小野建Youtubeチャンネル

まだまだ加工機はたくさんあります。
加工機の動画や会社紹介動画は
YouTubeの小野建チャンネルから視聴できます。
下記QRコードよりご覧下さい！



チャンネル登録もぜひお願いします！

Ⅱ. 建材販売・工事請負分野

建材商品

土木・建築工事に
使用される材料
鋼矢板・屋根・
フェンス・サッシ等
写真はフェンス、
鋼矢板



工事請負

鉄骨工事
屋根工事
外壁工事
サッシ工事
杭工事 など



THE OUTLETS北九州



天神ビジネスセンター

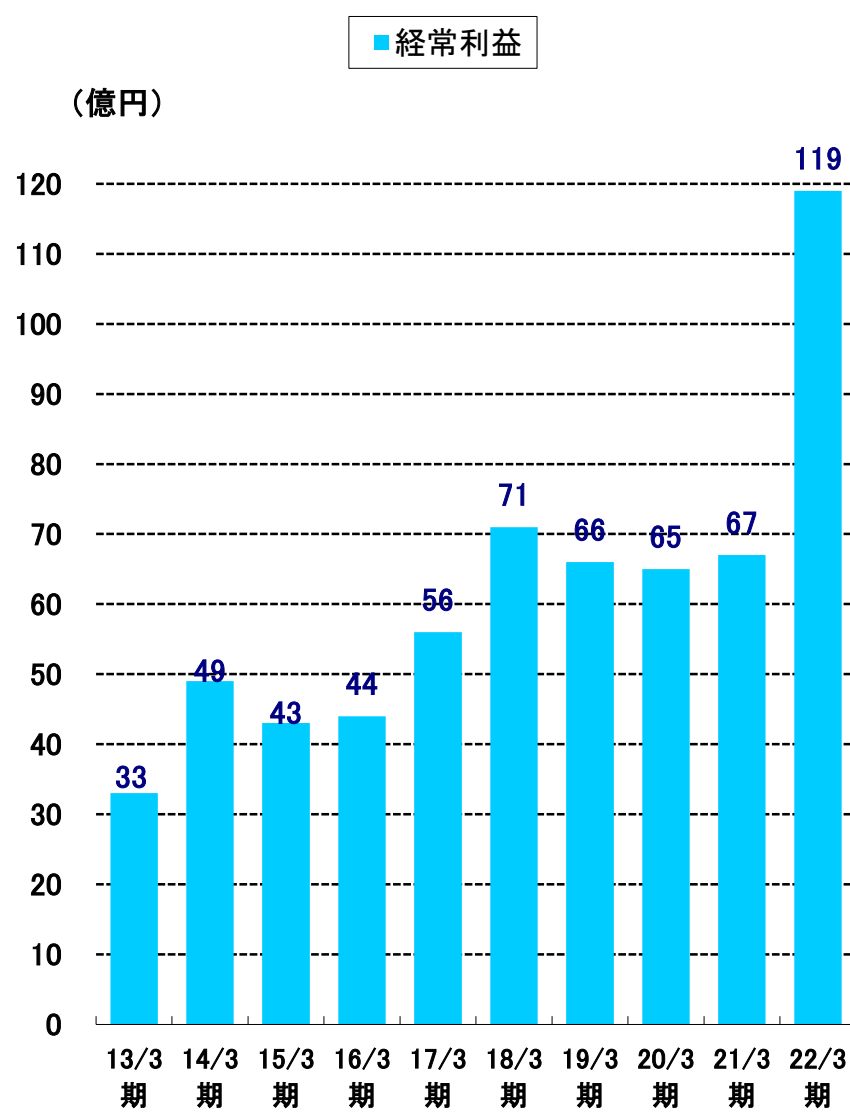
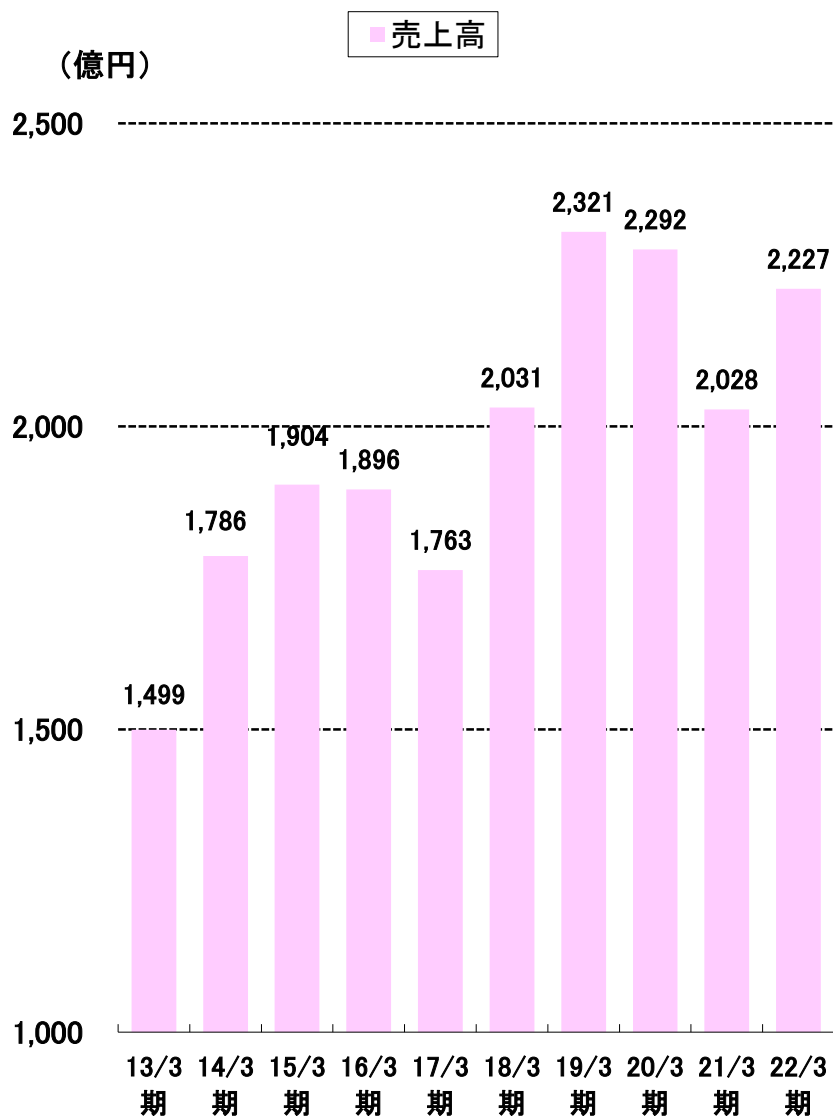
鉄骨工事の様子



鉄骨工事の様子



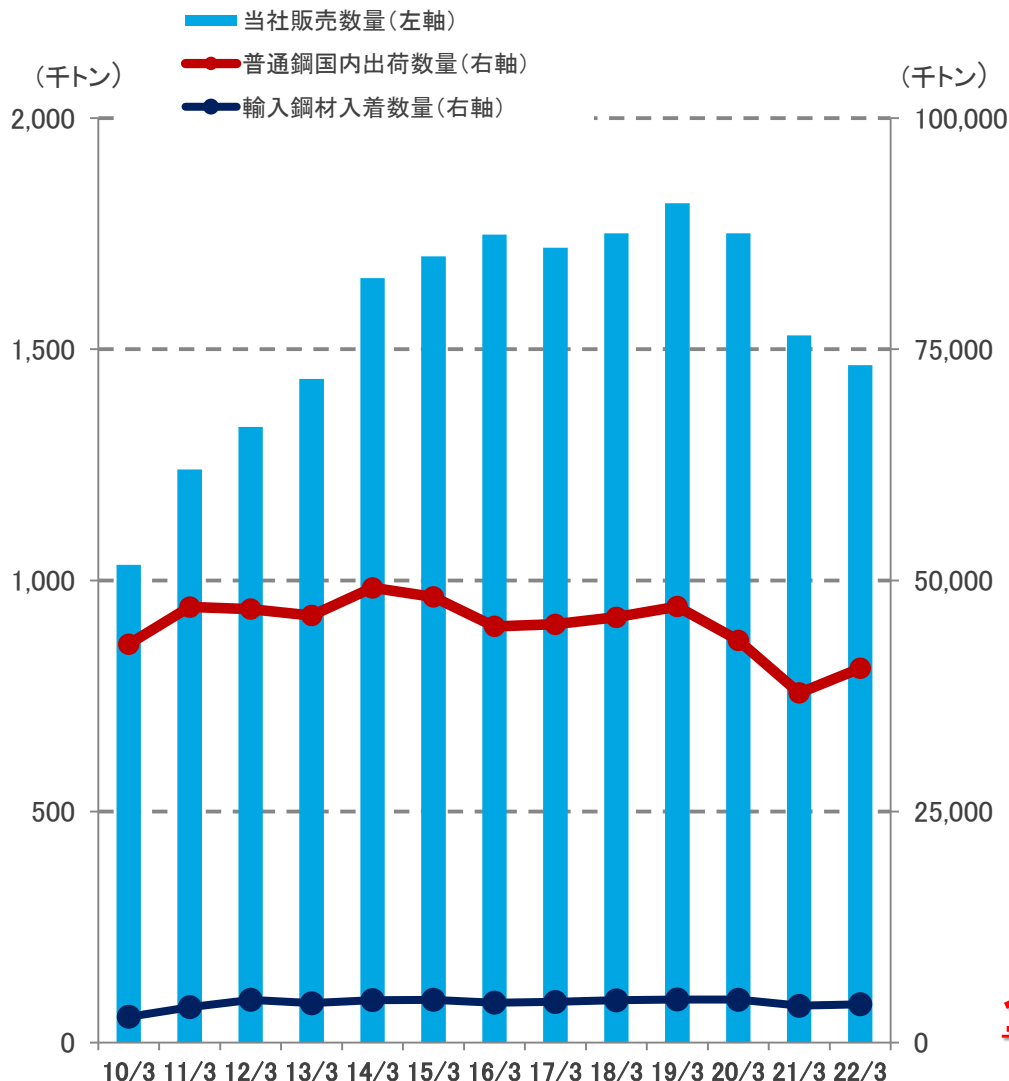
業績の推移



※利益面では過去最高を記録

鉄鋼流通業界での小野建のポジション

市場におけるポジション



● 小野建は国内での鉄鋼流通に特化して事業展開

● 全国シェアは同業者約800社の中でトップながら、現在3%程度

競合他社例	売上高	販売数量
競合他社A	677億	非開示
競合他社B	453億	400 千トン

「鉄」は社会基盤を支え、生活に密着した重要な素材であることは今後も不変

今後人口減少等により国内市場の縮小は予想されるものの...

全国で圧倒的な強みを持ってトップの地位を確立する

中期ビジョン

市場認識

- 今後の人口減少に伴う市場全体の縮小と需要の都市部集中などの偏在化
- 鉄鋼建材流通業界再編の加速
- 脱炭素化社会に向けての経営環境の変化



基本戦略

販売エリアの拡大

販売シェアの向上



「存在感のある企業」

地域に根差し持続的成長に向け、経営環境の変化に対応し続ける体制づくり

中期経営目標

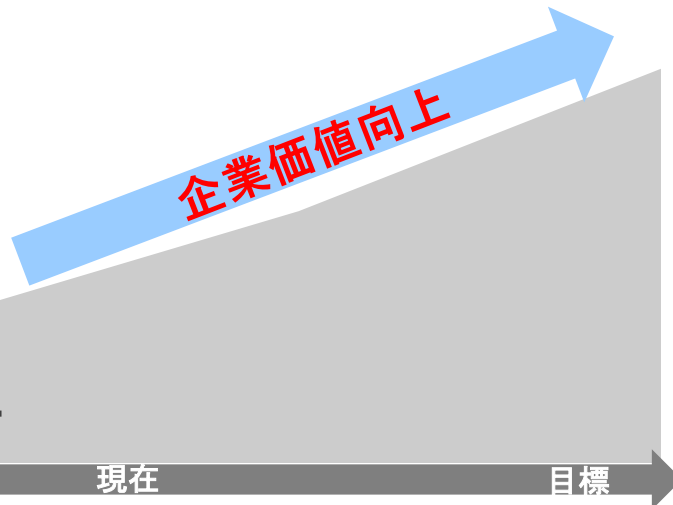
売上高 : 3,000億円

営業利益 : 150億円

自己資本利益(ROE) : 8.0%以上

現在

目標



中期ビジョン

物流拠点の拡充

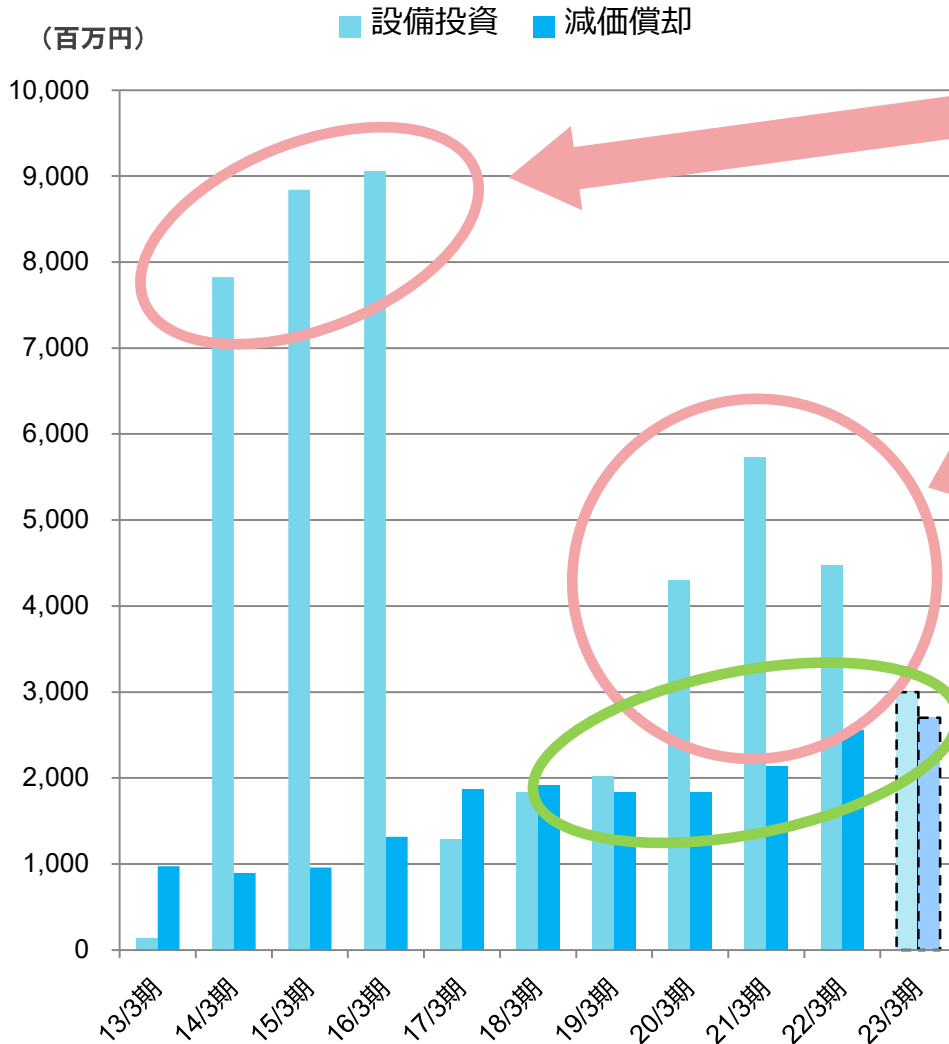
- ◆ 拠点拡充
- ◆ 加工機増設
- 物流センターの新增設により加工設備の充実ならびに在庫の拡充をはかりユーザーニーズに即応する体制作りを行う
- 拠点の新設により販売エリアの拡大と納期短縮を図る

工事請負事業の拡大

- ◆ 工事請負工種の拡大
- ◆ 施工管理者の育成強化
- 鉄骨工事請負による鉄鋼商品販売部門とのシナジー強化のほか、建築・土木の各種工事にてゼネコン各社への営業拡大をはかる
- メーカーおよび施工協力会社とのネットワーク構築の推進

今後も顧客のニーズを素早く読み取り応えていくことで誰からも必要とされる企業となる

設備投資



- ・10年先を見据えて3年間で約260億円の拠点新設・拡大を中心として備投資を実施
- ・加工設備拡充のための拠点の新增設など設備投資が増加
- ・減価償却費は若干増加傾向となる予定



**加工設備の充実による
安定的な収益向上**

ESGの取り組み

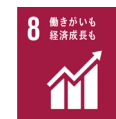


- 営業車のエコカー導入、倉庫の屋根にソーラーパネル設置によるCO₂排出量の削減



- 納品書電子化による紙の使用量削減

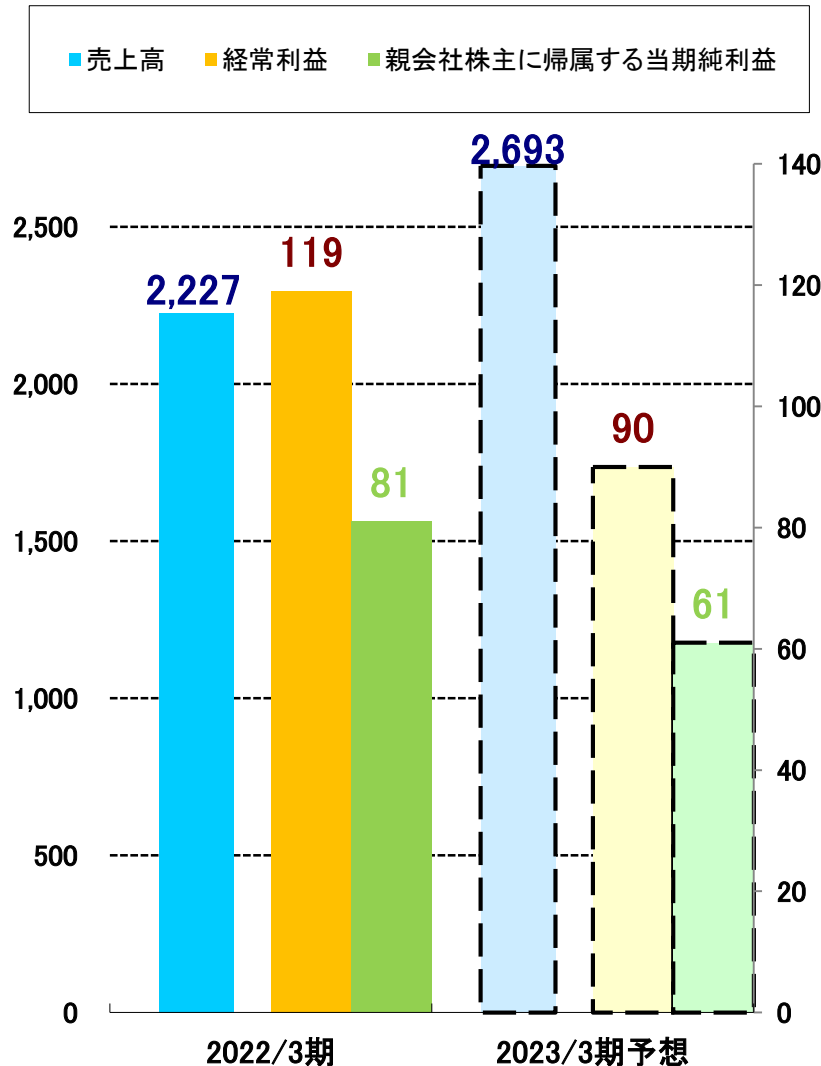
- 産休、育休、時短勤務等の利用によるワークライフバランスの充実



- 年1回の安全大会開催
- 社内相談窓口設置
- 地方創生応援税制による地域貢献（企業版ふるさと納税）

- コンプライアンスマニュアルの策定
- 社内通報窓口設置

今期業績予想について



◆環境

- ・コロナ禍での経済活動は徐々に回復してきており、特に物流施設、ホテル等の大型案件の着工が進むなど、需要は増加傾向となっている
- ・為替の円安傾向や世界的インフレの中、仕入価格は上昇傾向であり、販売価格への転嫁が課題

◆業績

・売上高

需要の回復による鉄鋼商品販売数量増と商品価格の上昇により増加

・利益

<鉄鋼商品販売事業>

仕入価格の上昇に伴う販売価格の転嫁が遅れることが想定されることから、利益率は低下傾向となる

<建材販売、工事請負事業>

需要において、大型案件は順調に推移しており、中・小型案件も徐々に増加傾向となっていることから、収益は増加する見込み

株主還元・株価指標について

着実な利益⇒着実な配当

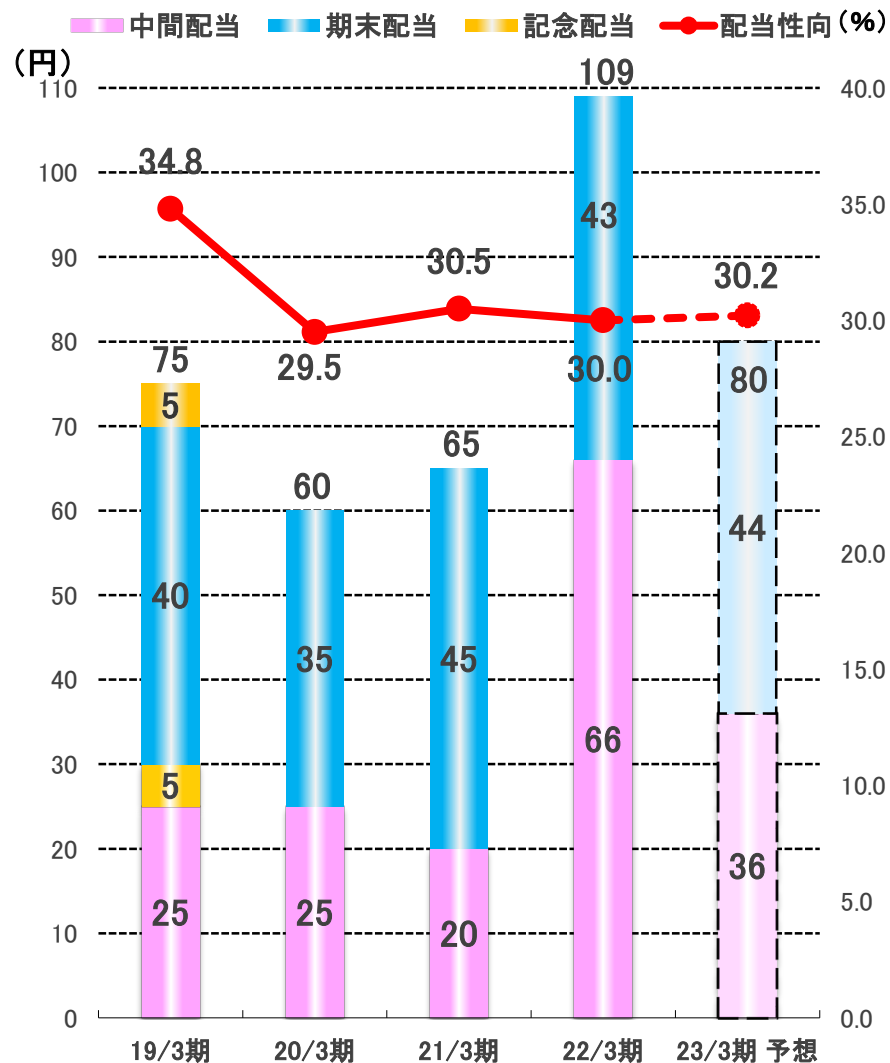
- 配当性向30%を原則に安定かつ高水準の利益還元を継続的に行う
- 中間配当制度を活用し、9月末日、3月末日の年2回、株主の皆様への配当を実施

実績PBR(純資産倍率) → 0.40倍

予想PER(株価収益率) → 5.38倍

予想配当利回り → 5.67%

※数値は株価 1,410円(7/11終値)をベースとして





參考資料

ONOKEN

損益計算書(連結)

(百万円)

	20/3期 実績	21/3期 実績	22/3期 実績	前年同期比 増減率	23/3期 通期計画	前期比 増減率
売上高	229,290	202,825	222,759	+ 9.8 %	269,363	+ 20.9 %
売上原価	209,601	182,920	195,599	+ 6.9 %	244,497	+ 25.0 %
売上総利益	19,688	19,904	27,160	+ 36.5 %	24,866	△ 8.4 %
販売費及び一般管理費	13,328	13,392	15,403	+ 15.0 %	15,951	+ 3.6 %
営業利益	6,360	6,512	11,756	+ 80.5 %	8,915	△ 24.2 %
営業外収益	341	290	315	+ 8.6 %	179	△ 43.2 %
営業外費用	174	85	94	+ 10.6 %	16	△ 83.0 %
経常利益	6,527	6,717	11,977	+ 78.3 %	9,078	△ 24.2 %
特別利益	14	57	187	+ 228.1%	0	—
特別損失	117	27	0	—	0	—
税引前当期純利益	6,424	6,746	12,165	+ 80.3 %	9,078	△ 25.4 %
法人税等事業税	2,008	2,208	3,829	+ 73.4 %	2,825	△ 26.2 %
親会社株主当期純利益	4,416	4,508	8,145	+ 80.7 %	6,185	△ 24.1 %

※22/3期から新会計基準を適用の為、前期比増減率は参考値
売上総利益以下、過去最高益

損益計算書(連結) 補足事項

◆22/3期 売上高増加の主な要因

- ・コロナ禍で需要は低調に推移し、販売数量は伸び悩んだものの、鉄鋼市況の上昇により販売単価が上昇
- ・鉄鉱石やスクラップなどの原材料価格の高値推移等を背景とした、メーカー主導での鉄鋼商品市況の上昇によるもの

◆22/3期 営業利益増加の主な要因

- ・鉄鋼商品販売における、在庫出荷分を中心とした利益率の上昇

◆収益認識会計基準等による影響額(従来 of 会計基準との比較)

- ・売上高3,634百万円減少

営業利益、経常利益及び税金等調整前の当期純利益は118百万円増加

- ・売上の減少は請負工事にかかる材料販売(有償支給材)の売上を認識しない(計上しない)ことによるもの
- ・営業利益以下の増加要因は、工事請負を完工基準から進行基準に変更したが、期中に完成した工事に比し、進行中(未完工)の工事の利益率が高かったことによるもの

貸借対照表(連結)

※主要項目のみ記載しております

(百万円)

	21/3期 実績	22/3期 実績	増減	増減率
流動資産	86,319	110,028	+ 23,709	+ 27.5 %
固定資産	57,773	60,440	+ 2,667	+ 4.6 %
資産合計	144,092	170,468	+ 26,376	+ 18.3 %
流動負債	62,305	82,226	+ 19,921	+ 32.0 %
固定負債	7,839	4,967	△ 2,872	△ 36.6 %
負債合計	70,145	87,193	+ 17,048	+ 24.3 %
純資産合計	73,947	83,275	+ 9,328	+ 12.6 %
負債・純資産合計	144,092	170,468	+ 26,376	+ 18.3 %

自己資本比率

51.2 %

48.5 %

貸借対照表(連結) 補足事項

◆流動資産の増加

- ・鉄鋼市況の上昇に伴う売掛債権、商品、貯蔵品の増加によるもの

◆固定資産の増加

- ・各拠点における加工設備の導入、熊本支店拡大移転によるもの

◆固定負債の減少

- ・転換社債型新株予約権付社債の権利行使によるもの

◆純資産の増加

- ・利益剰余金の増加によるもの
- ・転換社債の権利行使に伴い自社株充当後、不足分を新株発行したことによるもの

セグメント別業績推移(連結)

(百万円)

		20/3期 実績	21/3期 実績	22/3期 実績	23/3期 通期計画※
九州・中国 エリア	売上	137,075	122,484	121,311	148,442
	営業利益	4,392	4,287	5,363	5,479
	同利益率	3.2 %	3.5 %	4.4 %	3.7 %
関西・中京 エリア	売上	51,289	42,113	54,526	67,763
	営業利益	1,077	1,111	2,595	951
	同利益率	2.1 %	2.6 %	4.8 %	1.4 %
関東・東北 エリア	売上	40,924	38,227	46,922	59,126
	営業利益	818	1,079	3,899	2,237
	同利益率	2.0 %	2.8 %	8.3 %	3.8 %

売上高は「外部顧客への売上高」を記載

※通期計画は連結消去なしで記載の為参考値